



藤中だより

R7宇部市立藤山中学校だより第9号
令和8年1月8日発行
宇部市文京町10番50号
0836-31-0075

あけましておめでとうございます。新春を健やかに迎えのこととお慶び申し上げます。

冬休みを終え、校舎に生徒たちの活気ある声が戻ってきました。2026年、令和8年のスタートです。今年の干支である「午」のごとく、生徒たちがそれぞれの目標に向かって颯爽と駆け抜ける一年となるよう、教職員一同、気を引き締めて教育活動に邁進してまいります。

さて、新しい学期を始めるにあたり、ある科学者の言葉を紹介したいと思います。京都大学特別教授で、目に見えない小さな「穴」を操る技術で世界を変えた北川進先生です。ノーベル化学賞の有力候補として長年注目され、人類のエネルギー問題解決に挑み続けている北川先生が、大切にされている言葉があります。それは、「幸運は、準備された心にのみ宿る」です。

これは、19世紀の細菌学者パスツールの言葉でもあります。北川先生はこの言葉を自身の原動力とし、若い世代へも伝えておられます。

私たちは、他者の成功を「運が良かった」と捉えてしまいがちです。しかし、北川先生は、研究における画期的な発見も、単なる偶然ではないと説きます。「何だろう?」「なぜだろう?」と問い続け、毎日地道な実験と考察を積み重ねてきた人。つまり「準備された心」を持っている人だけが、目の前を通り過ぎる微かなチャンスを「幸運」として掴み取ることができるのです。

これは、生徒たちの学びや成長においても同じことが言えるのではないのでしょうか。日々の授業や家庭学習、部活動での基礎練習、あるいは人間関係での葛藤。こうした日々の「地道な積み重ね」こそが、将来、彼らの前に幸運が訪れたときに、それをしっかりと掴み取るための「器」を作っているのだと信じています。

三学期は「まとめ」の時期であると同時に、次なるステージへの「準備」の期間です。特に受験を控えた3年生にとっては、体力的、精神的な強さが求められる時期ですが、今この瞬間の努力が、必ずや未来の「幸運」を呼び込む糧となります。また、1・2年生にとっても、進級という新たな「午」の歩みを始めるための大切な助走期間です。

保護者の皆様におかれましては、子どもたちが日々の小さな努力を積み重ねていけるよう、引き続き温かく励まし、見守っていただければ幸いです。

本年も、本校の教育活動へのご理解とご協力を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

生徒会退任式、任命式

12月24日(水)に生徒会執行部の退任式と任命式を行いました。退任式では、3年生の旧生徒会執行部の全員から1年間を振り返っての思いを語ってもらいました。2年生の新生徒会執行部の生徒は任命書を授与され、新たな藤山中学校のリーダーとしての自覚を高めました。



生徒会役員リーダー研修会

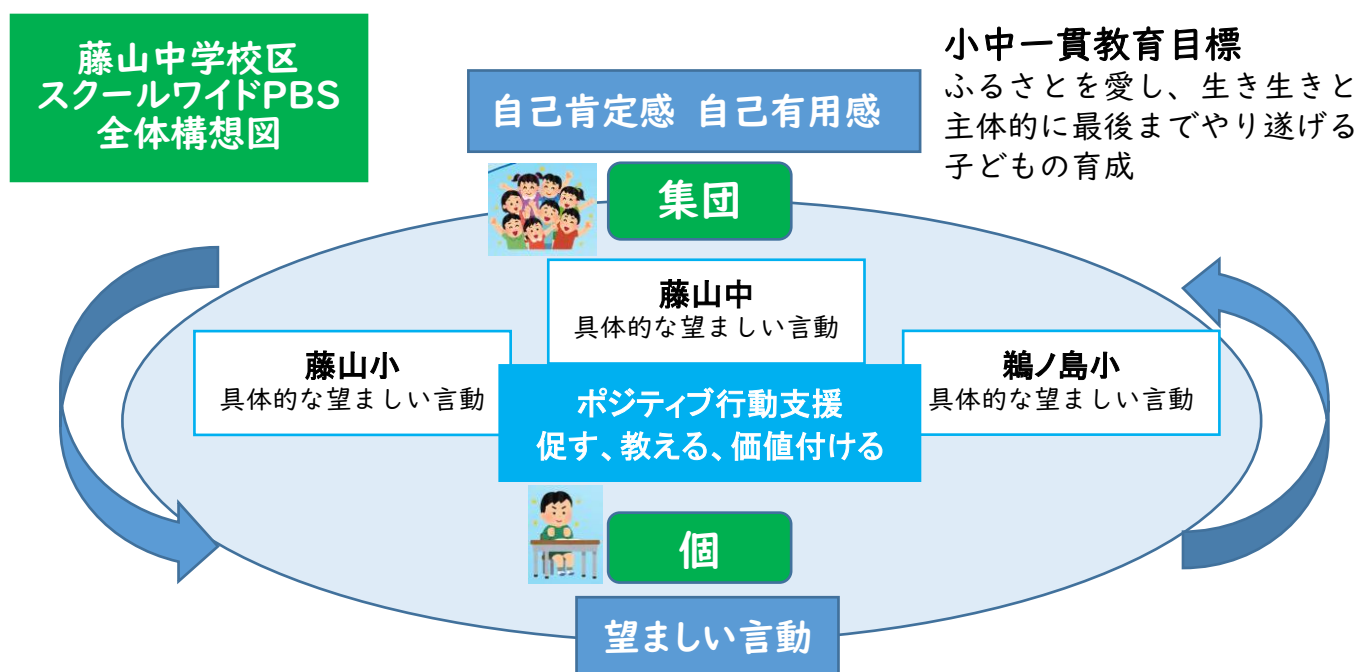
12月25日(木)、12月26日(金)に、新生徒会役員が参加する生徒会役員リーダー研修会を実施しました。研修会では、先生方からの講話や話し合い活動、門松づくりなどを行いました。研修会を通して学校のリーダーである自覚を高め、これからの生徒会活動の基礎づくりにつなげて欲しいと願っています。



藤山中学校校区におけるポジティブ行動支援

令和7年度、藤山中学校校区で PBS の全体構想を作成し、全教職員で共有することになりました。具体的には以下の手順を踏まえ、取り組みます。

- ①教育目標を念頭に、各校が望ましい言動を設定する。
- ②そして、望ましい言動を個と集団に対し促し、教え、価値づける（ポジティブ行動支援）。
- ③その上で、ポジティブ行動を通して、望ましい言動の増加と自己肯定感及び自己有用感の高まりのサイクルを好循環させる。
- ④結果的として好循環により、教育目標、ひいては児童の生活の質の向上を図ることをめざす。



ポジティブ行動支援 (PBS) とは・・・

「ポジティブな行動(子どもの望ましい行動)をポジティブな方法(教える・促す・価値づける)で増やそう」という支援の考え方です。